

平成27年度 札幌自由が丘学園三和高等学校 学校評価結果

和寒町教育特区学校審議会条例第2条第1項第4号により、三和高等学校について、平成27年度の学校運営全般の状況について同校から提出された資料やスクーリングの視察等を通して下記のとおり評価を行いましたので結果を町長に報告します。

評価項目	評価の視点	評価	所見
1 各教科の状況	教育課程の適切な運用と状況 教科指導の状況 進路指導の状況	良い	本校は、通信制・単位制であっても①基礎学力の再確認と定着②多様な体験を最重要視している。常に、生徒の卒業後の進路を想定し、社会に自立した人間の育成を図るために、自分とは違う価値観にたくさん触れさせることに注視している点は評価できる。さらに、添削指導や面接指導、試験を通して深めたい。また、「好きなことをやって」という通信制高校と一線を画している本校の教育に期待する。
2 生徒の状況	生徒指導等の状況 生徒の人格的発達の状況 安全管理の状況 要望等の状況	良い	本校に通う生徒は、様々な生育史を背負っている。そのため、高校に求めるものが一人ひとり異なる。「スタートラインがみんな違う ゴールが違う でも共に歩く道がある」の通り、生徒の心に耳を向け、落ち着きと安心を与えている点は評価できる。今後も人格的発達を考慮した、細やかな指導に期待する。
3 学校管理運営の状況	組織運営等の状況 教育目標と学校評価の状況 設置者と学校の取組状況	良い	小規模校だからできる職員と生徒、そして保護者の密な関係をベースにした学校運営が図られている点は評価できる。学校の教育目標達成に向けて、設置者と学校との連携も徐々に深みを増している。
4 学校・家庭・地域の連携協力の状況	学校に関する情報公開の状況 学校と保護者・地域住民等との連携協力の状況	優れている	「和寒町教育特区学校審議会」を通して、学校運営全般の報告を受け、併せて学校に関する情報公開も得ている。人間同士の「わ」、人間と自然の「わ」、平和の「わ」＝“三和”を大切にした実践は大いに評価でき、今後、様々な人と協同して「人を育む」学舎に期待する。そのためにも、本校を場とした教育の機会の拡充を望む。

5	学校設置による効果	学校が設置されたことによる経済効果	良い	生徒は、和寒町の豊かな自然はもとより、町民大運動会や極寒フェスティバル、町の各施での職業体験や農業体験を通して人と人との絆を深め、自信を深めている。今年度和寒町では、学習活動が生徒の成長の一助となることを期待し「札幌自由が丘学園三和高等学校後援会」を設立し、町全体で本校を応援する体制を整え本町の教育資源を大いに活用している。
6	町との連携協力の状況	町への現状報告及びセーフティネット対策の状況	良い	町と学校との連絡や報告といった分野では、一貫した姿勢で誠実に連携が図られており評価できる。セーフティネット対策についても、新たな連携や多様性を探るなど更なる充実を期待する。

総合所見	三和高等学校評価基準に基づき総合的に評価を行った結果、人間どうしの「わ」、人間と自然の「わ」、平和の「わ」＝“三和”を大切にした実践は大いに評価でき、確実に教育成果が収められている。和寒町は、今年度、本校の教育を支えるために「札幌自由が丘学園三和高等学校後援会」を設立した。町全体で本校を応援する体制を整えたことにより、今後、教育の成果が生徒数に反映されるべく生徒一人ひとりの創意と工夫を生かした本町での教育活動が展開拡充され、地元とのつながりを深化させ学校及び町の活性化につながっていくことを期待する。			
------	--	--	--	--

評価については、「模範的」、「優れている」、「良い」、「おおむね満足」、「要改善」の基準で評価しています。